

*1 エボラ出血熱、マールブルグ病、ラッサ熱、クリミア・コンゴ出血熱、南米出血熱

目的

2014～2015年西アフリカのエボラ出血熱アウトブレイクに対して実施してきた国内対応を踏まえ、各種通知やマニュアル等を整理し、地方自治体や保健所等が行う公衆衛生対応方針を総括し、将来の世界における大規模アウトブレイクや我が国における患者発生に備える。

① 平常時の備え

○ 基本的事項とリスク評価 ○ 想定すべき発生状況 ○ 組織体制 ○ 届出基準(疑似症患者の定義)

② 患者発生時対応

(検 疫) ○ 検疫所での初期対応
↓
(保健所) ○ 移送・入院勧告 — ○ 国内発生時
↓ 対応フロー

(検査診断) ○ 検体採取 ○ 検体輸送 ○ 検査実施

↓
患者確定

(積極的疫学調査) ○ 疫学調査及び接触者の管理
(消 毒) ○ 消毒・汚染物除去等
(医療機関) ○ 入院医療体制
○ 一類感染症の治療に関する
専門家会議

→ (退 院) ○ 退院基準
→ (死 亡) ○ 遺体の管理

(リスクコミュニケーション)

○ 広報及び情報提供

③ 調査・研究

○ 調査研究の実施

迅速・円滑な行政対応

(海外における発生状況に応じて、対応に関する通知、マニュアルが更新されたら、適宜手引きも更新し、行政対応が迅速に対応出来るようにする。)